



＜今月の1枚＞ヨット・カヌー試乗会

21 世紀を生きる子どもたちに必要な力とは

40 年前、私が中学生、高校生だった頃の勉強法を思い出してみると、

- ・ 数学の公式を一生懸命覚え、類題を数多く解く。
- ・ 単語帳を片手に英単語や文型を暗記する。
- ・ 太字で書かれた歴史上の人物を暗記する。
- ・ 古文助動詞の活用形を暗記する。

といったものが一般的でした。

大学受験の際は、共通一次試験で 5 教科 7 科目のマークシート方式のテストを受け、その後、二次試験で 2～3 教科の記述式のテストを受けました。

学校の授業は、高校入試や大学入試でより多くの点数をとることを重視したものが多かったように記憶しています。「効率性」「正確さ」「確実さ」「勤勉さ」などが求められていた高度経済成長期の影響がまだ残っていたのでしょうか。

その後、2000 年代に入り、世の中のデジタル化が急速に進みました。SNS の普及によりコミュニケーションの在り方が大きく変化しました。人々の意識や価値観も大きく変化し、誰にも予想することのできない多くの問題が発生するようになりました。また、必要な知識は AI に教えてもらえる時代となり、「いずれ人間の職業が奪われるのではないか」と心配する声もあります。

このような背景から、求められる学力の姿にも変化が生じています。問題が複雑化する時代において、個人の力だけで物事を解決することは困難となっており、「みんなで力を合わせて問題を解決する力」を身に付けさせることを主眼とした教育が求められています。視点を「いかに多くの知識を身に付けさせるか」から、「協働的な学びによる問題解決能力の育成」へと転換しなければなりません。もちろん、読解力や情報処理力といった様々な学習活動を進めていく上で土台となる基礎能力をおろそかにすることはできません。

正解のない問いに向き合い、解決に向けて「考え続ける力」「最後までやり遂げる力」を身に付けさせ、困難な時代をたくましく、柔軟に生き抜くことのできる子どもたちを育てたいものです。

来春開校する「砂川学園」の学校教育目標・重点目標の決定、教育課程の編成にあたりましては、21 世紀を生きる子どもたちにとって何が必要なのか、伸ばしたい力は何なのかをしっかりと議論しながら作業を進めてまいります。

砂川市教育委員会指導参事 神 島 亘 基